

## 学びの集大成「コミュニティプロジェクト」

中学3年生は、コミュニティプロジェクトという学習活動に取り組みます。コミュニティプロジェクトとは、3年間の授業や行事などの教育活動の全体を通じて学んだ知識・技能、思考力や表現力、ものの見方や考え方などをフル活用して取り組む探究活動です。香北町・香美市・高知県・日本・諸外国など大小さまざまなコミュニティの課題を見つけ、その課題を解決するための具体的なアクション（奉仕活動）を計画します。

12月18日にはコミュニティプロジェクト発表会を開催しました。来場者には、3年間の体系的な学習の流れと成長を見ていただきました。

- ▶台湾の学校や日本のIB認定校である他の中学校などと交流し、香北中を中心とした交流の場を作る
- ▶プラスチックごみ削減についての絵本を作成し、香美市民の環境への意識を高める
- ▶動物虐待についてポスターを作成し、啓発活動を行う

### 【来場者の感想】

- それぞれの発表を聞いて感じたことですが、いろいろなチャレンジをする中で様々な意見や過程があり、難しさを感じながらも本当に積極的に行動してすごいです。どの学年の人たちの発表もわかりやすく素晴らしかったです。
- 地域を思う気持ちが伝わってきて、感心しました。子どもたちが成長して町外へ出たとしても、いつでも帰ってくる場所としてこの香北が元気であり続けられるような活動が続くといいなと思いました。

## 地域で取り組む「香北だからこそできるIB教育」

日本のMYP認定校は令和5年1月18日現在、34校あり、その中で公立学校は8校です。校区制では、日本で唯一、香北中学校だけです。校区制の学校ということは、学校の活動を支える地域コミュニティがあるということです。（地域には様々な専門家が存在しますし、地域の課題は地域の方々が最もよく知っています。）学校だけでは実現できない学びを、地域の方々と協働することで創造していくことができます。これは他のIB校にはない、地域の公立学校だからこそできる本校の最大の強みです。

この強みを最大限に生かそうと、大宮小学校・香北中学校の保護者有志で結成されたIB保護者アンバサダーチーム（IBA）が、保護者や地域住民の方々のIBについての理解が深まるように広報活動をしていただいています。その一貫として、1月14日、香美市基幹集落センターにてIBA主催のIB座談会が開催されました。総勢51名の来場者に、本校の3チームが総合的な学習の時間やコミュニティプロジェクトの成果を発表しました。地域の方々から様々な質問や意見をいただき、発表した生徒たちはさらに学びが深まったようでした。

このように、保護者や地域の方々のご協力をいただきながら「香北だからこそできるIB教育」を今後も発展させていかなければいけないと強く感じています。



## 国際バカロレア認定校になりました 香北中



▲MYP認定証明書

昨年12月14日に国際バカロレア機構より、香北中学校が正式にIB教育のMYP（中等教育プログラム）の認定校になった旨の通知が送られてきました。この通知により、香北中学校は正式にIBワールドスクールの仲間入りを果たしました。MYPで、校区制（地域に住む子どもたちを入学の対象とする）公立学校としての認定は日本初です。また、市立大宮小学校（令和3年1月認定）から9年間一貫してIB教育を提供する体制が整いました。

令和2年10月26日に国際バカロレア教育を提供するIBワールドスクールの「候補校」となって以来、IBの教育理念や10の学習者像を教育目標の中に取り入れ、教育内容や教育方法の改善を続けてきました。今回は、国際バカロレア教育とはどのような教育なのか、また中学3年生の取り組みを紹介し、香北中学校で行っているIB教育を目指す生徒達の姿を紹介します。

### 授業の様子

協働する力や批判的思考力などを高めていくため、生徒中心で学びが展開されていく場面が必ずあります。



### 国際バカロレア教育とは

国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

引用：国際バカロレア機構（2020）「プログラムの基準と実践要綱」